

題字：石野 華鳳
(書家 小松市出身)

kansei hogo komatsu nomi
更生保護

小松能美

第15号

2023年(仲秋号)

思いやりあふれる世の中に



会長 和田 慎司

コロナ禍も四年目に入りました。この間未知のご苦労を跳ね返し、諸先輩から受け継いだ勇氣と愛情を更生保護活動に傾注された保護司・更女会・BBS・協力組織の皆様のご貢献に深く敬意を表します。

犯罪形態は深刻化、悪質化しており、従前の知識だけでは不安を覚えています。とくに未来を担う若者が巻き込まれる事案が急増していることに心を痛めており、昨年の大麻や覚醒剤の検挙者では十代、二十代が70%を占め、闇バイト強盗など特殊詐欺逮捕者のうち青少年の70%が再犯という数字にショックを受けています。

本年は、大正十二年に嘱託少年保護司制度が始まり百周年の節目です。私どもも新たな「学び」を通じて保護司会活動を活性化して行かねばなりません。第一には「技を高める」です。犯罪の本質を探り、対象者とのコミュニケーション力を高めましょう。第二は「心を磨く」です。罪を犯す人の心理を知ること、私たちの心を研ぎ澄まし犯罪の再犯や未然防止に役立たせましょう。第三に「心身の健康」です。健全な精神は健全な身体に宿ると教えられました。皆様をはじめ、対象者やその家族も含め心身の健康を高め、思いやりあふれる社会づくりによって、青少年が非行や犯罪に関わらない世の中にしていきたいと思います。

更生保護活動に自信と誇りを一層感じられるよう皆様とチカラを合わせ務めて参りますので、ご指導のほどお願い申し上げます。

令和五年度 保護区定期総会を開催

令和五年度の定期総会は、五月十八日(木)午後一時三十分から小松市第一地区コミュニティセンターで開催しました。コロナ禍での総会は、文書表決や昨年の来賓なしでの開催となりましたが、今年は感染対策が緩和されたこともありコロナ禍前の対応で開催しました。当日は、参加者二十五名と委任状二十一通で総会は成立し、元山会長が挨拶した後、来賓の上岡金沢保護観察所長、越田小松市副市長が挨拶され、能美市の米脇市民生活部長が井出市長の祝辞を代読し、前川北町長からのメッセージは佐野副会長が代読しました。続いて徳山保護司の議長の下、令和四年度の事業報告、会計決算そして令和五年度の事業計画、会計予算案が提案され、すべて承認されました。

今回は役員改選期であり、五年間保護区会長を務められた元山会長が退任され、和田慎司小松支部長が新たに保護区会長に選任されました。杉本副会長、由田会計には引き続きお受けいただき、十年に亘り保護区の庶務として会の運営にご尽力されました林庶務は退任されることになりました。中川能美支部長が副会長と兼務で新たに庶務を担当することになりました。小松支部の片村庶務と能美支部の南庶務と連携しながら保護区運営に取り組んでいくこととなります。

新たな執行部として和田会長のもとで、これまで先輩達が築いてきた保護区保護司会の歴史を守りながら、新しい時代のニーズにあった取り組みをしていくこととしています。特に、政府も取り組みを強化していく再犯防止に向けて、犯罪心理学の習得など新たな事業にも取り組んでいくこととしています。

また、七月には保護区管内の社会を明るくする運動の啓発を促進するための足掛かりを築くため、更生保護関係者による市町民のつどいを開催することとしました。コロナ禍で自粛か中止を余儀なくされた活動をコロナ禍前に戻し、全保護司が各部会を中心に行事や事業に関わっていくことを目標にしています。



第二次再犯防止推進計画について



金沢保護観察所
所長 上岡 靖之

本年三月十七日、国の第二次再犯防止推進計画が閣議決定されました。背景には、刑法犯の検挙者数全体は減少傾向にあるものの、そのうちに占める再犯者の比率が上昇傾向にあり、刑法犯検挙者の約半数が「再犯者」であるという厳しい現実があります。

そこで、第二次推進計画では、「就労・住居の確保」、「保健医療・福祉サービスの利用の推進」、「地域による包摂の推進」など七つの重点課題に整理し、九十六の施策を実施することになりました。

◎保護観察所における地域援助の推進、◎保護観察所による刑執行終了者等に対する援助の充実、などによって、私たちの前に現れる対象者の再犯の防止を図っていくこととなります。

なお、第一次推進計画の大きな柱の一つであった地方再犯防止推進計画については、トップを切って令和元年に小松市「リ・スタート」計画が策定されて以降、県内でも順次定められ、策定見込みのある市町も除くと、残るは二町（川北町と穴水町）となりました。観察所としても地方公共団体に理解と協力を得るよう努めますが、引き続き皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



着任の御挨拶



金沢保護観察所
保護観察官 澁谷 星香

小松能美保護区の保護司の皆様、関係機関・団体の皆様、日頃から更生保護に御尽力いただき、誠にありがとうございます。

私は、大学時代に心理学を専攻しており、複雑な環境によって形成された精神状態やそれによる社会への生きづらさの現実を講義や実習で学びました。そういった人達に少しでも力になりたいという強い思いを持ってこの分野に入ってから四年目になります。保護観察官としては一年目になります。このような節目に、小松能美保護区を担当することができ、大変光栄に思っております。また、小松能美保護区の保護司の皆様は、未熟者の私に対し、優しく包み込んでくださり、日々沢山勉強をさせていただいております。

今後とも、御指導、御鞭撻のほどよろしく願っています。



私のライフワーク



チャリティ協力作家
松村 芳明

私の趣味は絵を描くことです。小さい時からずっと続けています。絵

をやる人種の共通の楽しみはグループで活動すること、展覧会に挑戦することでしょうか。能美市には現在能美市絵画協会と能美市美術作家協会が活動していますが、私は両方も市合併以前からの創立会員です。

た。県の現代美術展はやがて五十回になります。展覧会に挑戦するには結構エネルギーが必要です。いつも頭のなかで絵を描いています。この事が老化防止になるのではと密かに思っています。

企画しています。今年で九回目ですが、私も三回挑戦して、二勝一敗です。今年も松本美術館へ行ってきました。出品がありまして。元気を貰って帰ってきました。



第73回 社会を明るくする運動月間



メッセージ伝達式(川北町)



メッセージ伝達式(能美市)



メッセージ伝達式(小松市)

メッセージ伝達

七月初旬、小松市、能美市、川北町庁舎で保護司会と更生保護女性会の役員が市長・町長・議会議長に総理大臣メッセージを伝達しました。懇談では、更生保護活動への理解と協力、保護司適任者の安定的確保・再犯防止推進計画の一層の強化などをお願いしました。また、各市町庁舎に社明運動の懸垂幕を掲げ、公共施設や学校にポスターやチラシを配布し、テレビ小松で社明運動CM動画を放映しました。昨年引き続き各市町庁舎の一角に啓発ブースを設け、のぼり旗を掲げ、啓発用品やチラシを置き、来庁者への啓発に大きな成果を上げることができました。

JR四駅街頭キャンペーン

令和五年七月十日、午前七時から約一時間、社会を明るくする運動のキャンペーンとして小松・明峰・粟津・能美根上のJR四駅で保護司四十名、更生保護女性会十二名、BBS会一名の参加を得て、啓発チラシとポケットティッシュを朝の挨拶とともに配布しました。全体で約三千人の人たちに声掛けができました。今回から三団体が全員オリジナルの社明ベストを着用してのキャンペーンとなりました。ベストの効果は絶大で「あんたらどこの人」と聞かれることもなく、不思議そうな顔もありませんでした。少しでも皆さんに犯罪や非行を防止する活動・立ち直りを支える地域のチカラの必要性を伝えることができたのではないかと思います。

(犯罪予防活動部会 福島日出夫)



JR4駅街頭キャンペーン

「小松能美市町民のつどい」を開催



小松能美市町民のつどい



院長 聖靈病院 常盤 秀樹 社明作文優秀作品朗読

「子どもに関わる私たちが、一人ひとりのできる範囲で、子どもの将来の幸せを願いつつ、頑張りすぎずに、けれども、あきらめずに、今できる支援を続けていくこと」と締めくくられました。昨年度に続いてのつどいでありましたが、今回は教育関係の方々にもご案内したこともあり、また更生保護女性会のご理解もあつて多くの関係者の参加が得られました。将来的に保護区として社会を明るくする運動にかかる小松能美保護区での大会への足掛かりになりました。

毎年全国一斉に展開されます社会を明るくする運動の期間中に、啓発の一環として市町民のつどいを実施しました。七月二十三日の土曜日に小松市第一地区コミュニティセンター大ホールで開催し、オープニングでは、公立小松大学吹奏楽同好会のメンバー四名が楽器の説明トークを交えて二曲演奏してくれました。和田会長の挨拶の後、昨年応募いただいた社明作文で県に推薦した優秀作品二つどいの基調講演では、金沢市内にある社会福祉法人聖霊病院の聖霊乳児院院長の常盤秀樹氏が、児童相談所職員時代に生活支援センターで指導してきた経験談をお話しいただきました。問題を抱えて親兄弟から見放された子どもたちや厳しい家庭環境で育った子どもたちとの生活や指導の厳しさをお話いただき、大変なご苦労をされてこられたことに頭の下がる思いがしました。約一時間の講演でしたが、参加された皆さんが食いつくように聞いていました。最後に常盤先生は、「こどもに関わる私たちが、一人ひとりのできる範囲で、子どもの将来の幸せを願いつつ、頑張りすぎずに、けれども、あきらめずに、今できる支援を続けていくこと」と締めくくられました。

第46回 有名作家チャリティ作品展

社会を明るくする運動の一環として、有名作家チャリティ作品展が、七月二十八日〜三十一日まで金沢エムザ二階「エムザギャラリー」において開催されました。

本運動の趣旨にご賛同いただいた県内の有名作家に作品を御寄贈いただき、作品は来場者の入札により、その売上金は罪を犯した

人々の更生援助や犯罪予防活動に役立てられます。県内有名作家の作品を一堂に鑑賞できるとあって、熱心に見入る来場者の姿が見られました。

ご寄付された地元作家の皆様、お世話された保護司有志の方々に、厚くお礼申し上げます。



【寄贈された方々】(敬称略)

◇工芸の部	打田 幸生	三ツ井為吉	浅蔵五十吉
	浮田 健剛	山中 国盛	高 権成
	北村 鶴代	中田 一於	吉田 美統
	北村 隆	北村 和義	田村 敬星
	徳田八十吉	村中 暁美	北村 英昭
	糠川 孝之	米田 和	野村 大仙
	山岸 大成		
◇絵画の部	八十山和代	山本 勇	田方 勇
	北 長八	東 孝太郎	後出 秀茂
	池岡 信	松村 芳明	西房 浩二
	斉藤 敏明	阿部 正子	小西 明人
	山崎 綾乃		
◇書の部	都賀田久馬	福田 樹峰	

新任保護司

新任にあたり



小松支部
近 信濃

妻の故郷であるこの情に厚い石川県小松市に、十二年前に転居したことを契機に、人とのつながりが増え、それまでの人生とは打って変わってたくさんの方との交流を得られました。

そうした中で、人間が生きていくには色々な関係性を持ち、助け合うことがあってこそではないかと感じるようになりました。

ちょうどそんな折に、ご近所にお住まいの浅田保護司さんからご紹介をいただき、熟考の末に保護司となることをお受けした次第であります。

今のところまだ対象者とのやりとりの経験はありませんが、犯罪を未然に防ぐことも保護司の仕事の一つだと聞ききました。そのような活動や勉強会に参加しながら必要な知識を少しずつでも増やしていく所存でございますので、皆様どうぞご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

退任保護司

退任にあたり

浅田 美代子

分区の送別会で、華やかだけビジネスリと重みのある花束を受け取り、私の二十八年間に亘る保護司としての生涯は終わりました。

振り返ればよく続けて来ることが出来たと感無量の思いです。観察官をはじめ保護司の皆様方のお支えがなければこそこの事でした。

初めて担当した対象者はまだ若い青年でしたが、初回面接では私自身がひどく緊張していた事を思い出します。また薬物依存のご家族と共に悩み一生懸命寄り添ったつもりでしたが再犯で刑務所に入った時は、本当に落ち込みました。その後結婚して赤ちゃんを連れて会いに来てくれた時の嬉しさはとも言葉に表せませんでした。対象者に翻弄されたり荒波を越える苦しさも味わいましたが、保護司を引き受けた事に後悔はありません。

今は肩の荷をおろした安堵と一抹の寂しさも感じています。保護司の皆様のご活躍をお祈り申し上げ、そして今までに出会った皆様ありがとうございます。

新任保護司

新任にあたって



能美支部
吉田 佳永子

「あなた保護司になってくれない」とある日突然、尊敬する方からの一言。寝耳に水とはこのことでした。正直私には無理だと。ただ、いまは亡き金沢の伯父が永年保護司をしていたので、仕事自体はおぼろげながら認識してました。けれど本当に私に務まるのか不安でした。が、現在民生児童委員をしているので重なることもあり、「適任かどうかかわからないけれど、やってみます」と返答しました。不安はありますがお誘いいただいたご縁です。大切にしたいと思います。

保護司として数か月がたちましたが、研修や活動も数回です。これから色々な事が有ると思います。が、緊張せず焦らず、マイペースで出来る事をしたいと思えます。どうぞよろしくお願いたします。

退任保護司

退任を迎えて

日野 晃子

令和五年六月九日付けをもって、保護司を退任致しました。

平成十一年六月、当時分区分長さんからのお誘いがあり、保護司が務まるか不安はありました。身内では同じ保事区で叔母の浅川あさを(女医)、金沢保護区で叔父が現役の保護司。叔父に話すと、励ましてくれ迷わずお引き受け致しました。

保護司を拜命され、二十四年務める事が出来ました。在籍中は、保護観察十件を担当。環境調整事件、保護観察処遇までのケースを担当し、多くの方々と出会いもありました。先輩保護司さんの御指導、サポートがあつてこそ二十四年間保護司が務まった事、感謝し、定年退任の日を迎える事と相なりました。

長い間お世話になりました。

退任 谷 京子

パートナーの活動司護保

小松地区更生保護女性会

「活動の中から」

会長 中谷 純子

近年にない気持ちの穏やかな令和五年度を迎えることが出来たようです。足元の確かな歩みを感じ、六月には徳風苑・新県立図書館視察研修を実施。久しぶりに懐かしい方々と時を同じくでき、笑顔満載の日でした。

七月は社明月間。三駅では保護司会に提供頂いたピンク色のベストも初々しく(?)挨拶運動に参加。市民センターで開催のキッズフェスタでも着用し、これまでにない気持ちも弾み、甲斐甲斐しく子供たちと接する姿は自信ありげに見えました。不思議なもので、今後は是非活用していきたいと好意を有り難く受け止めております。

八月は四日に恒例の獄死者の墓地清掃と慰霊(六月に小松市で墓標の基礎を改修頂く)。早朝五時から草むしり。同日夕方五時に上岡金沢保護観察所長をお迎えし、保護司の森本住職に読経頂く。暑さで滴り落ちる汗を拭いながら、持ち寄った沢山の花々に彩られた名も無き方々に手を合わせ、今年も先駆者の志を繋げられた事に感謝。お下がりのお饅頭がとても柔らかく、皆さんの心の様でありました。

能美地区更生保護女性会

「できることだけで…」

会長 高倉 桂子

徐々に日常に戻り、今年度も総会開催を皮切りに活動をスタートする事ができました。今回は特別講演に、元オリンピックマラソン代表の中村友梨香氏を迎え、自身の実体験に基づく興味深い話を、愉快なクイズで楽しいやりとりをしながら、アスリートらしい爽やかな笑顔と共に元氣と勇気を頂きました。

スポーツや勉強は、優劣を競うことで向上心の原動力となり成果はつきりしていますが、更生保護活動そのものには、勝敗も採点もありません。個人でやれることには限界もある中、様々な交流を通して得られる一体感こそが全てを象徴しているように思います。

人間は自然界から多くの恩恵を受けながら豊かな社会を作り上げてきました。私達もその自然の中のひとかけらにすぎませんが、まずは「できることだけで…」。原動力は、それで十分だと思っています。

小松能美地区 BBS会

「小松能美地区の活動が動き出す」

会長 北野 友希

今年度小松能美地区会の活動は、コロナ禍で出来なかった活動が戻ってきています。また、コロナ禍で活動出来ない分、入れた活動も継続となり、倍の活動をこなしています。会員はそれぞれ、仕事をしながら、時間を縫って参加してくれています。

今年度既に終わった活動としては、五月五日の子ども交流センターの子どもまつり。風船の中に水で膨らむビーズを入れて感触を楽しむ、ぶよぶよビーズスクイズを子ども達と楽しみました。喜ぶ子ども達の姿を見て、久しぶりに子ども達と交わる活動の喜びを感じて来ました。また、石川県少年の主張の地区大会や県大会のスタッフとして、頑張る子ども達を応援してきました。素敵な子ども達の姿に元氣とパワーをもたらした気がしています。正直、活動が増えすぎて少し大変なのですが、子ども達の元氣な笑顔にパワーをもらい、残りの活動も頑張りたいと思っています!

各部会報告

総務部会

中川 和信

令和五年度の総会で役員が改選され、新たに和田慎司保護司が新会長に就任されたこと、総務部会も和田会長、片村小松支部庶務を迎えて新たに五名でスタートしました。

早々五月二十九日には、本年度第一回目の理事会に提案する案件について協議しました。継続案件でもある市町民のつどいについて、更生保護関係団体で開催することとし、実施委員会の立ち上げ、開催内容の確認をしました。また総会で出た旅費の見直しについても、他の県内保護区の実態を調査し、当保護区としての対応を協議しました。

総務部会としては、今後も理事会提案の案件の協議や緊急的な案件についても必要に応じて開催し、保護区の適切な運営に努めていくこととしていきます。

研修部会

井上 和代

今年度の研修部会は、定例研修、実務研修会、自主研修、視察研修等々例年通り行います。

自主研修に関しては、新年一泊研修会をおびし荘にて開催します。講師は研修部会のメンバーや事務局とも相談して素晴らしい講師を呼びたいと思っています。

女性部会員から、女性会をしたいという意見が出ましたので考えてみたいと思います。視察研修もまだ行ったことがない関心のある所を考えてみたいと思います。

犯罪防活動部会

福島 日出夫

今年度の活動は「社会を明るくする運動」を皮切りに関連事業として

JR四駅の街頭キャンペーン、作文コンクール等の推進事業を行います。小松市北部児童センター主催のキッズフェスタ2023、小松能美保護区市町民の集い、中学校でのケース研究会など保護司会活動の啓発が犯罪の予防になると信じて部会活動を行いたいと思います。

近年コロナウイルス感染症のため活動自体がアイドリング状態でしたが、本年五月八日より第五類に移行したことで一気にフルスロットルの感じですが、他の部会と協働し活動を進めたいと思います。

協力組織部会

依 秀雄

昨年度の社会貢献活動は能美市の和田山史跡公園で清掃活動を行いました。今年度は小松市内で行う予定で、場所と内容についてはこれから部会で決定する予定です。

また、今年度はコロナウイルスが五類の感染症移行になったことから、協力組織部会で小松基地の視察を予定したいと思っています。基地内にはいろいろな施設があり、業務の説明や視察可能な施設の見学ができればと思っており、時期は年内を計画しています。

広報部会

新川 賢

今年度も機関誌「更生保護小松能美」を年一回(九月、三月)発行することとしました。保護区の活動もコロナ禍前に戻ってきており、これを記録し共有することが次の活動にもつながります。皆様の協力をお願いします。

また、保護司会保護司会の活動を広く地域の方々に知ってもらうことも広報部会の重要な役割であるとの認識で、保護区独自のリーフレットの作成やSNSメディアを利用してはどうかなどの意見がありました。検討を重ねていくこととしています。

小松支部だより



能美支部だより



令和五年年度の支部独自事業としては、①ペストを作成し、保護司会員・更生司員 BBS 会員に配布したこと、また、②心理学特別講座の開催が挙げられます。これは令和五年二月の特別会計検討委員会の答申を受けての、初事業の位置付けになります。

早速七月の JR 駅前での社明運動で全員が着用しましたが、保護司会の PR と会員の一体感が表現されたと思っております。また、保護司二人一組による市主催の夏休み巡回にも着用しました。十一月開催予定の大学教員による心理学特別講座は、理解できるの心配な点もありますが、我々のスキルアップにつながるものと信じており、待ち遠しい斬新な企画です。

次年度以降も青少年への犯罪予防活動の啓発や保護観察対象者への支援も含め、特別会計が有効に使われるよう微力ながらお手伝いさせていただきます。

令和五年度総会を四月十八日に開催しました。これまでどおり令和四年度事業報告、会計決算、そして令和五年度の事業計画、会計予算が承認されました。引き続き役員改選があり、これまで三期六年間能美支部をけん引していた元山支部長が退任されることになり、新たに長年庶務を担当してきた副支部長の中川保護司が支部長に選任されました。また、川北地域担当の由田保護司が副支部長に、これもまた会計を担当してきた南保護司が庶務を兼務することになりました。

組織として新たなスタートとなりますが、支部保護司十五名が互いに力を合わせて、更生保護活動に取り組み、支部会運営にそれぞれの立場で協力していくことを確認しました。

また、この三年間新たに保護司に任命された新任保護司の歓迎会ができなかったことから、六月二十三日に辰口温泉「まつさき」において歓迎会を兼ねた懇親会を開催しました。新任保護司全員の参加は叶いませんでしたが、保護司同志、保護観察で抱える悩み事や更生保護活動を通じての意見、そして日常のたわいもない話で盛り上がり、久しぶりの懇親会でもあったことから楽しいひと時を過ごすことができました。

教育現場からの声



小松市立松陽中学校 校長 為川 学

笑顔と感動があふれ、自分の成長を実感できる「チーム松陽」を目指して

そんな大規模校だからこそ、令和五年度、本校では「人と人とのつながり」、そして、「チーム力の向上」こそが大切だと考え、「チーム松陽」を旗印に。学級、学年、学校全体のつながり・絆を深める活動を推進しています。授業、学校行事、部活動等のさまざまな教育活動の場面に、「チーム松陽」を意識した活動を取り入れています。そのためには、生徒たちが「自分たちの学校は自分たちの手」という意識を持ち、主体的に取組を実践していくことが不可欠だと考えています。本校校歌の一節には「進取」という文言があります。「進取」とは、みずから進んで物事に取り組みことを意味します。令和二年から続いたコロナ禍の影響が落ち着いた今こそ、この「進取」の意志を育み、笑顔と感動があふれ、自己の成長を実感できる学校をチームとして目指していきたいと考えています。

小松能美保護区保護観察件数等 / 8月1日現在の増減比較数

単位(件)

Table with 6 columns: 種別, 1号, 2号, 3号, 4号, 生活環境調整. Rows include 令和4年, 令和5年, and 増減.

最近の保護観察件数等の動向

保護観察事件は少年事件の割合が高く、男性が10人、女性が1人である。また、生活環境調整事件は刑事施設入所者が15、少年院入院者が2であり、全て男性である。

編集後記

和田新会長、新執行部のもと、令和五年度がスタート。コロナ禍の制約もなく、これからの活動に期待です。それにしてもこの夏の暑さ、小松市の最高気温四〇度にはただただ驚くばかり。暑い中、ご寄稿いただきました皆様にご感謝申し上げます。ご協力ありがとうございます。

〔新川 賢〕

お問い合わせ 事務局 TEL0761-46-5105 FAX0761-46-5108 E-mail hogoshikai@aquaplala.or.jp URL http://hogoshikai.org

発行日 令和5年9月20日 発行 小松能美保護区保護司会 広報部会 印刷 マルト株式会社